

18歳人口減少期のセンター試験の 出願状況の年次推移と地域特性

－ 志願者の2層構造化と出願行動の地域特徴 －

独立行政法人 大学入試センター

研究開発部¹ 入学者選抜研究に関する調査室²

内田照久¹・橋本貴充¹・鈴木規夫²

2014年12月21日(日) PM 13:30-17:50 外濠校舎3階 S306教室

はじめに

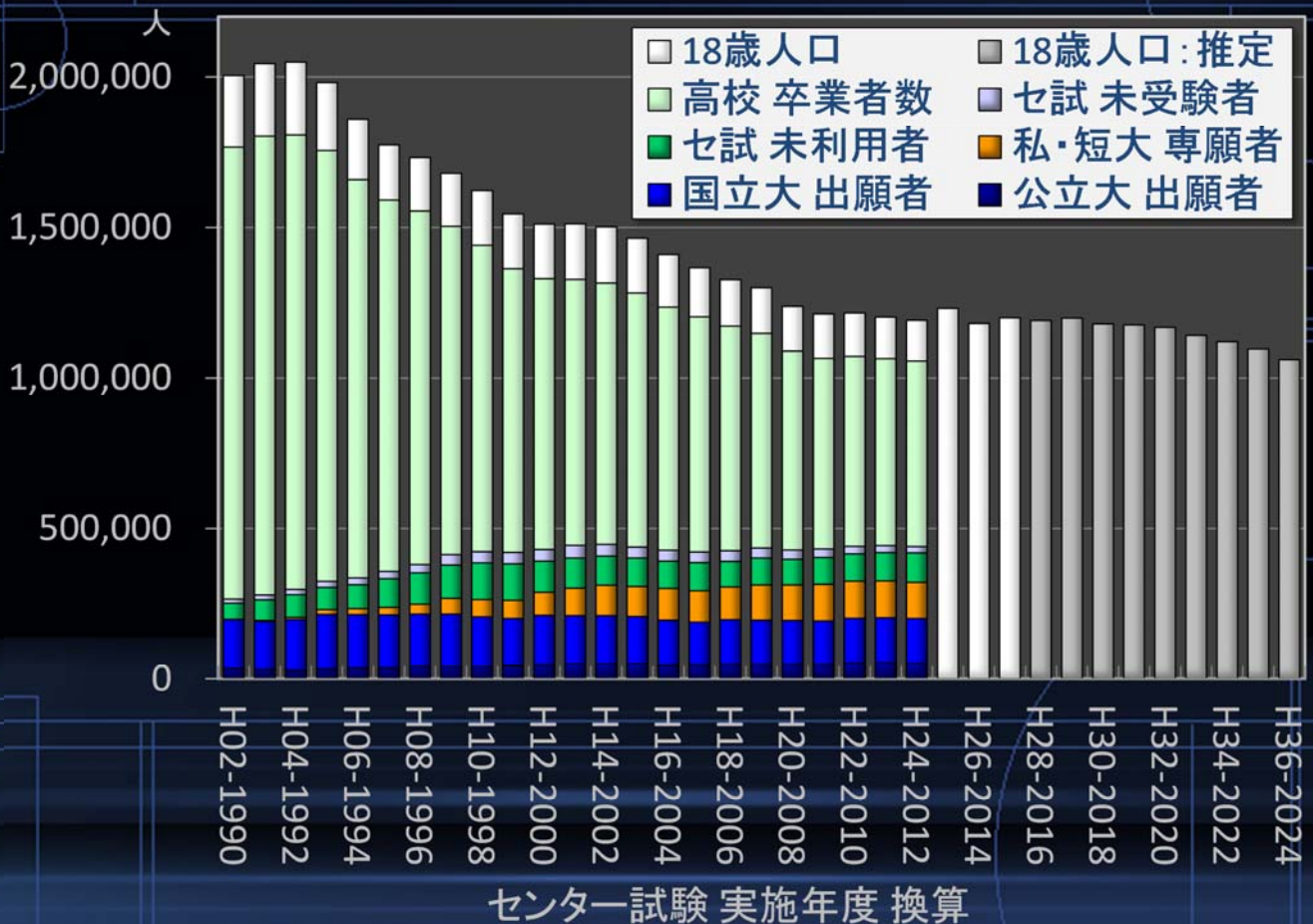
- センター試験：四半世紀の歴史を刻む大規模試験
 - 18歳人口の減少 / 私大参加による利用範囲拡大
- 高大接続の観点から 高校“新卒者”に焦点
 - セ試の歴史の中で“何が変わってきたのか？”
 - ずっと安定して“変わらない特徴は何か？”
- 出願動向の歴史的変容・地域特性を可視化
- セ試の利用大学が活用できる情報を提供
 - 公的試験の社会的な機能や役割は？

あらまし

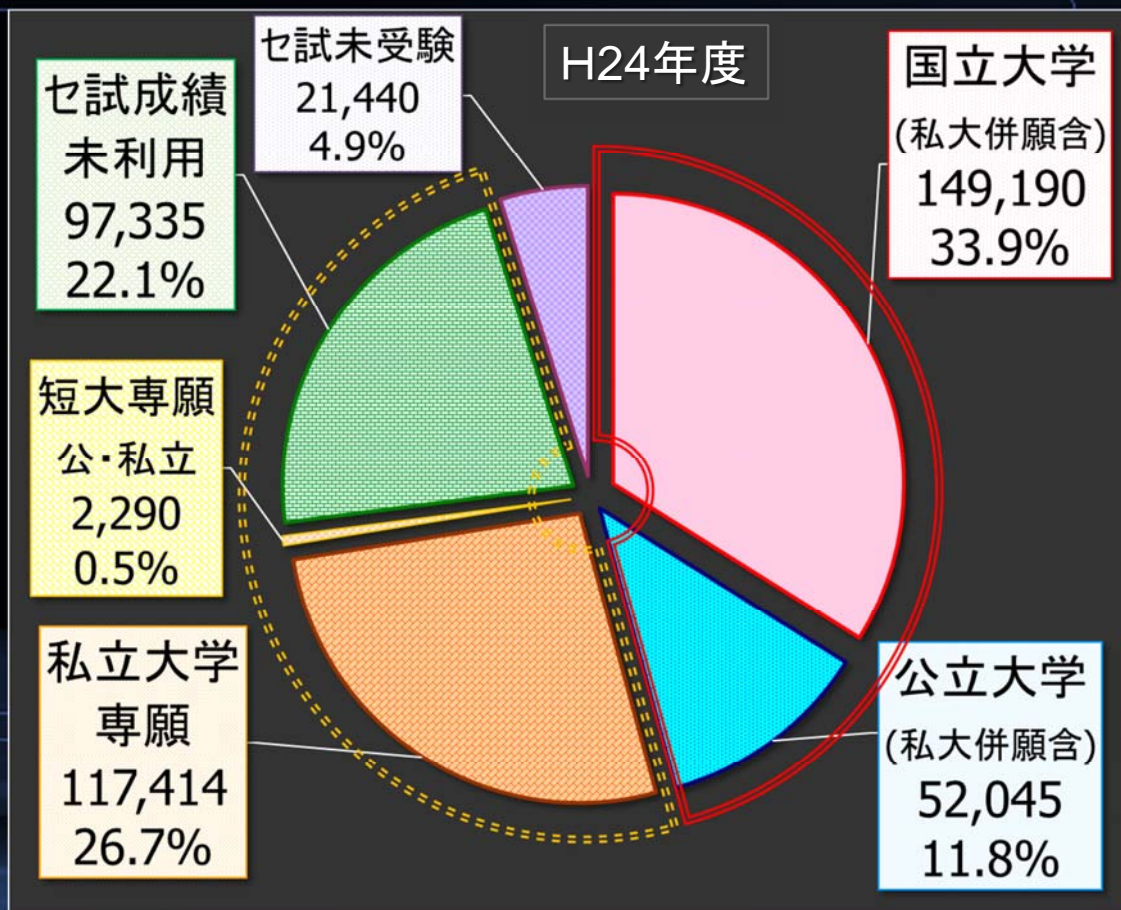
1. センター試験志願者の2層構造化
2. 高校卒業者の進学志望とセ試利用
3. セ試による出願状況の地域別の特徴
4. 今後の18歳人口の推移予測と地域差
5. センター試験の現況と今後の課題

3

センター試験と18歳人口 (1990-2024)



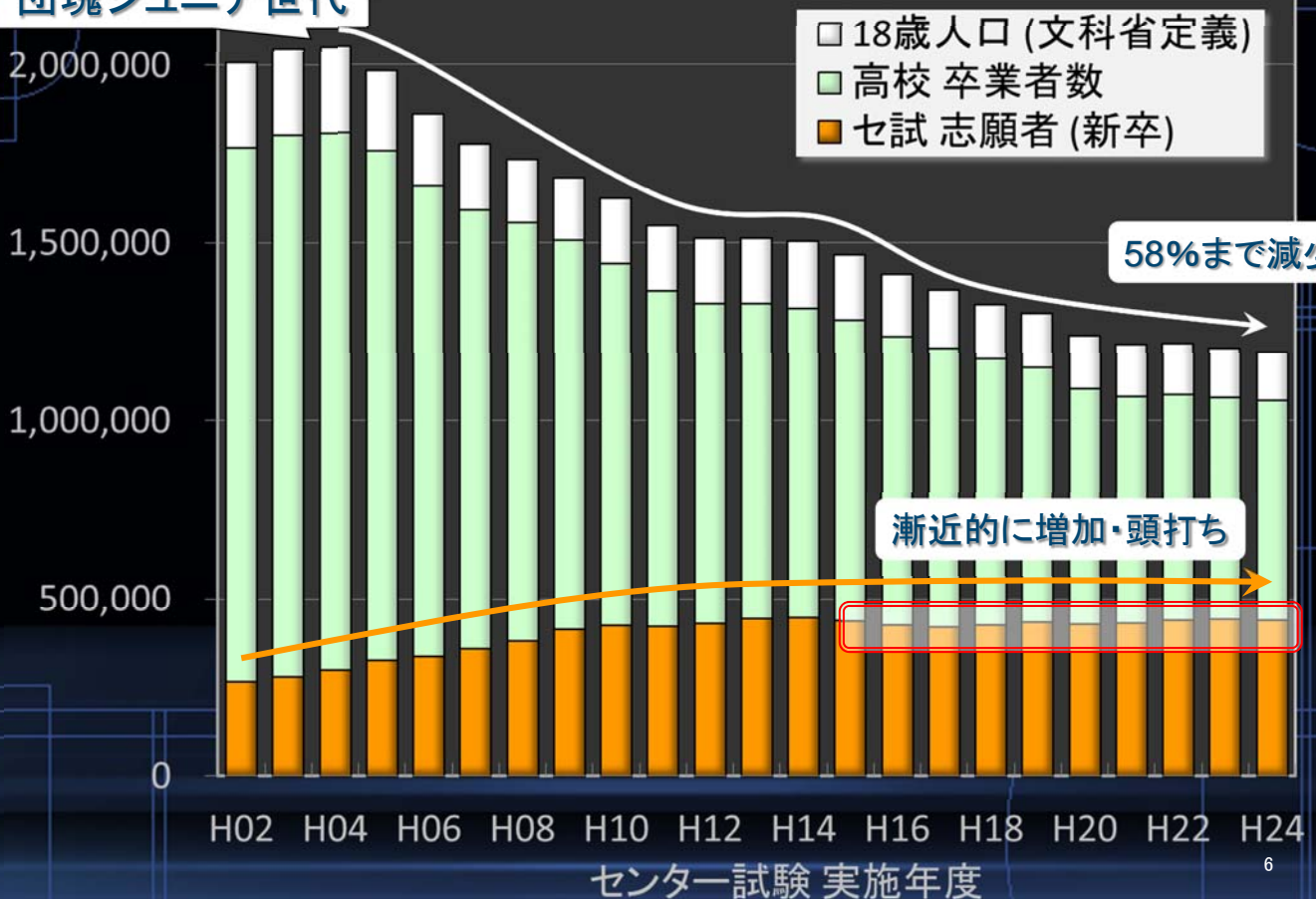
0. セ試“新卒”志願者 出願内訳



5

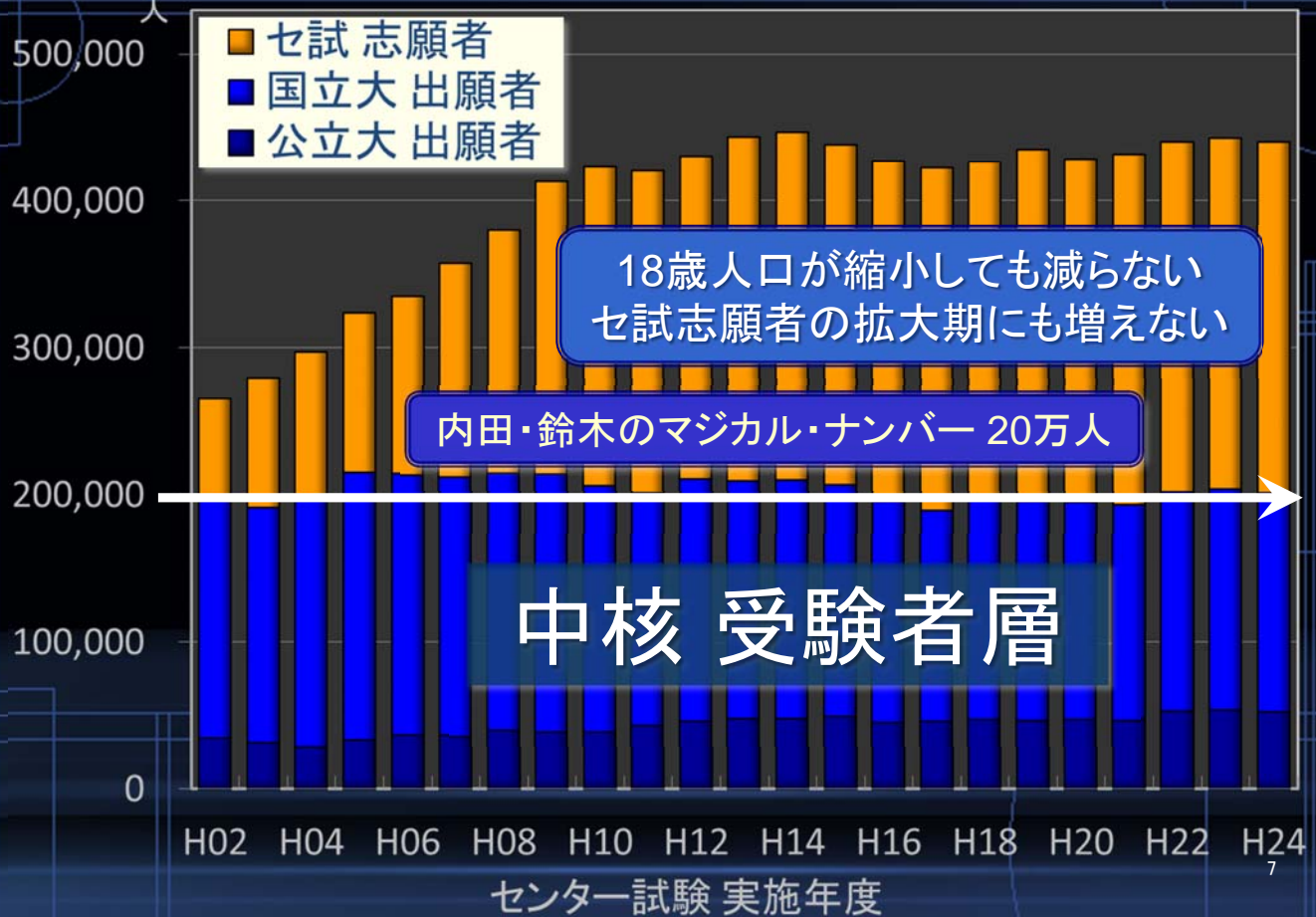
1. 18歳人口とセンター試験志願者

団塊ジュニア世代

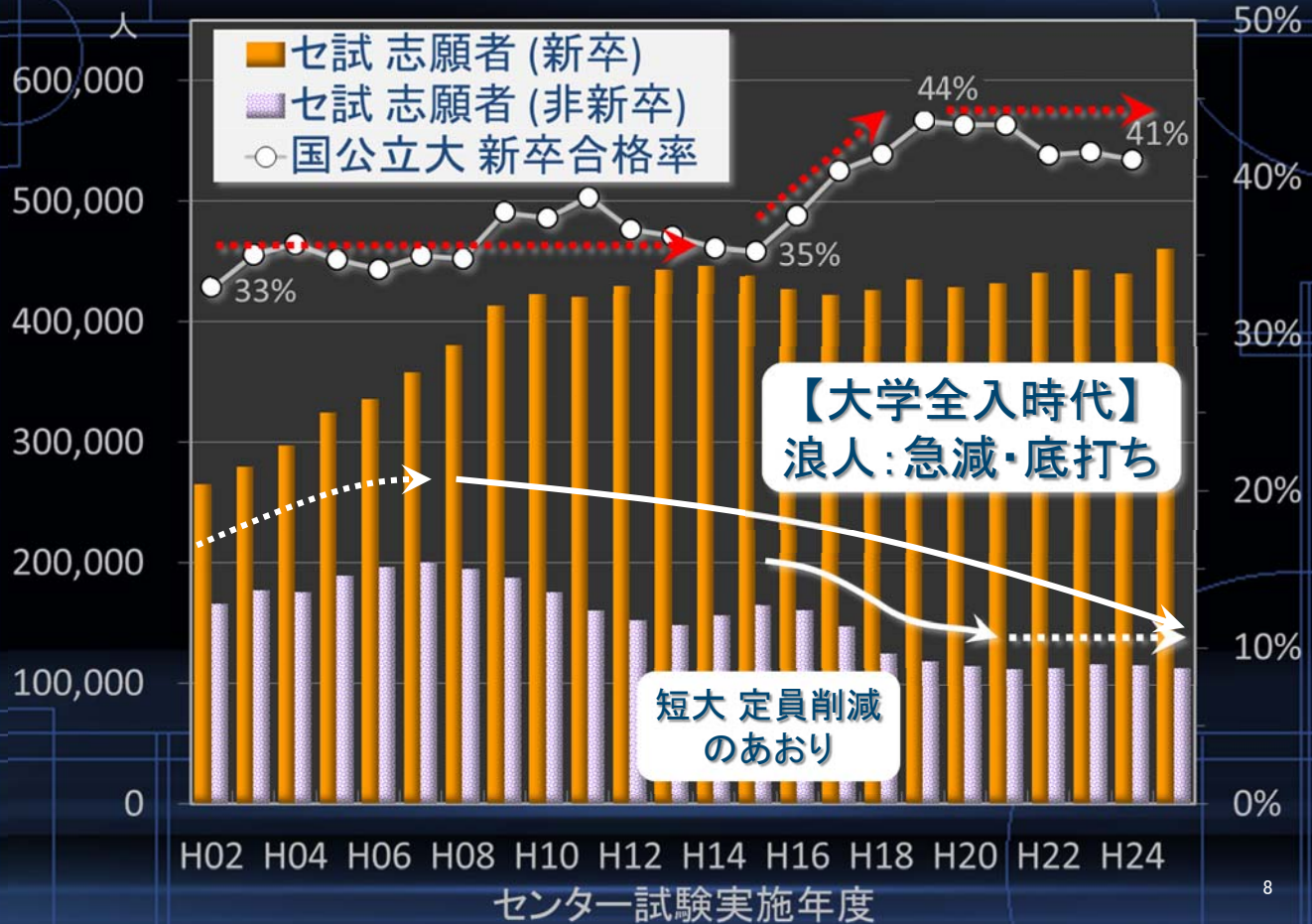


6

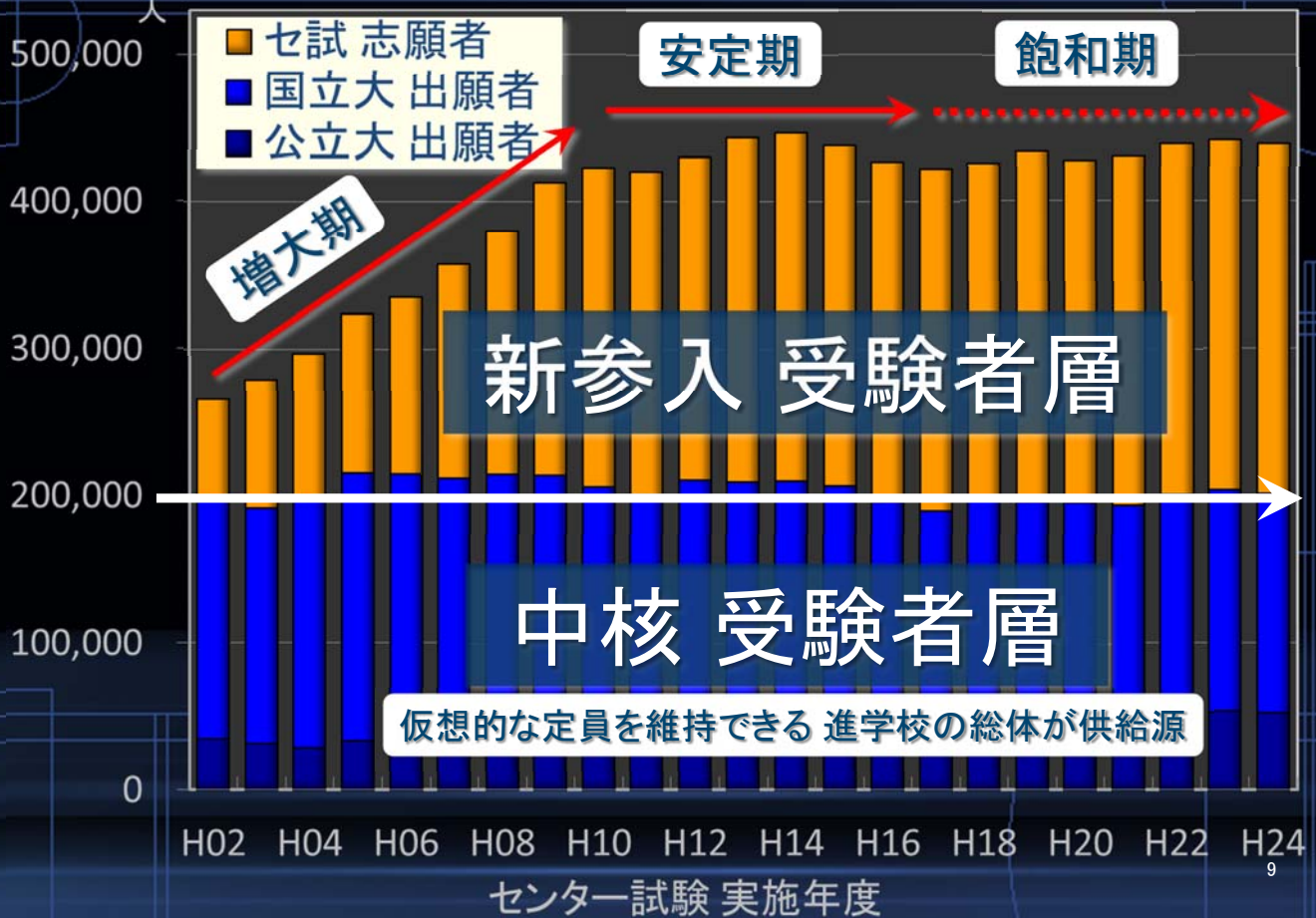
1.1a センター試験の中核受験者層



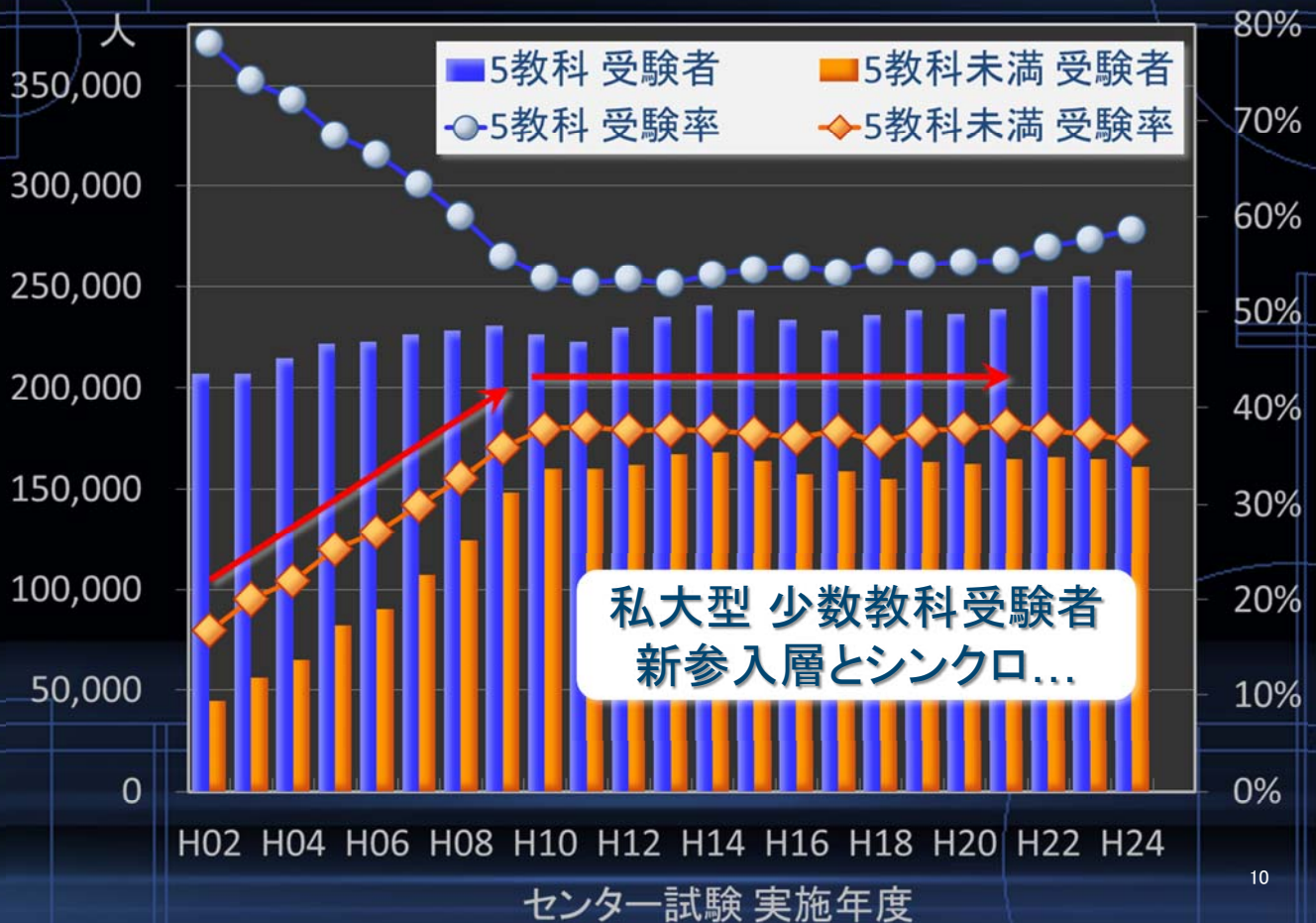
1.1b 新卒・《非新卒》志願者



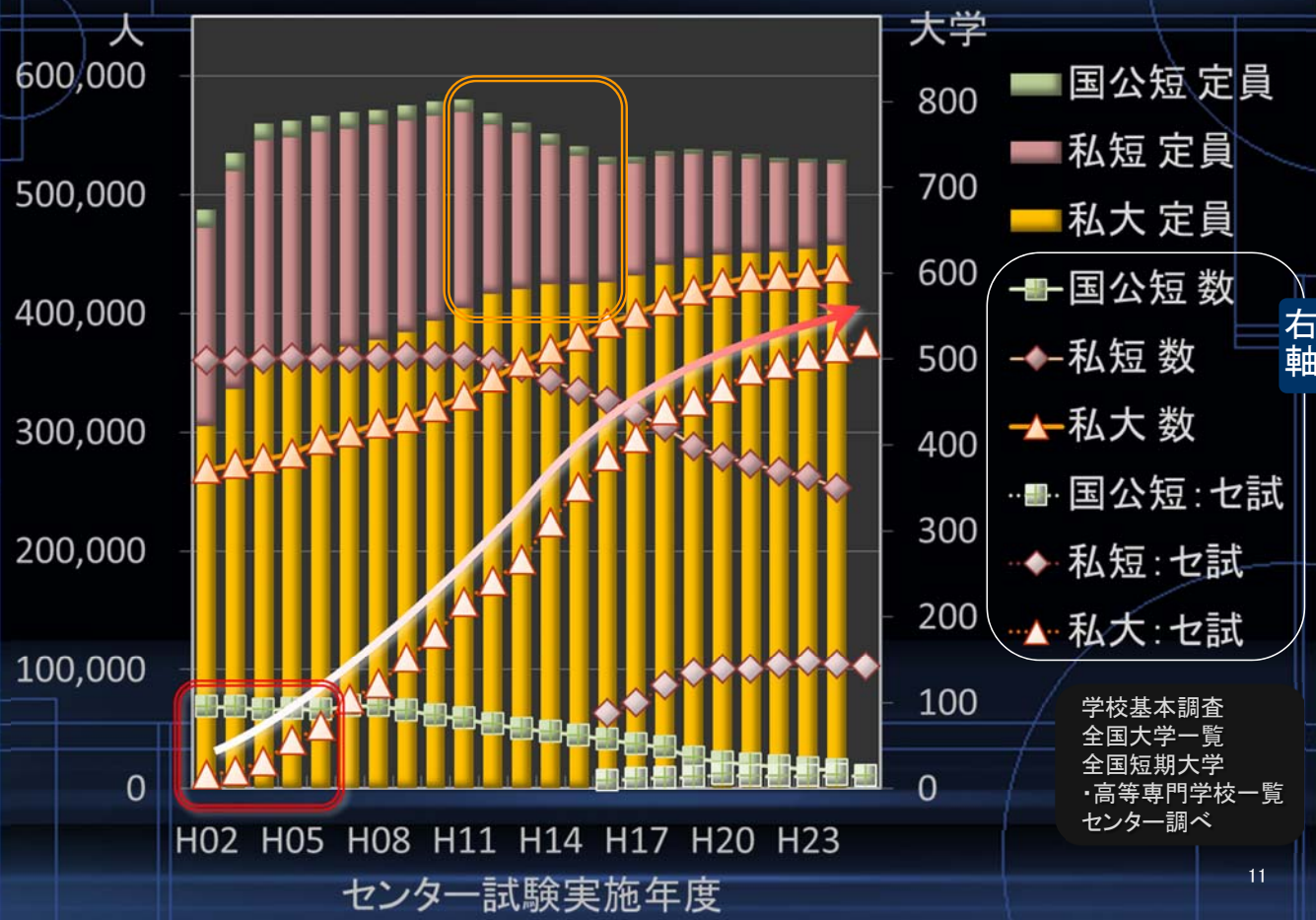
1.2a 中核層と新参入層



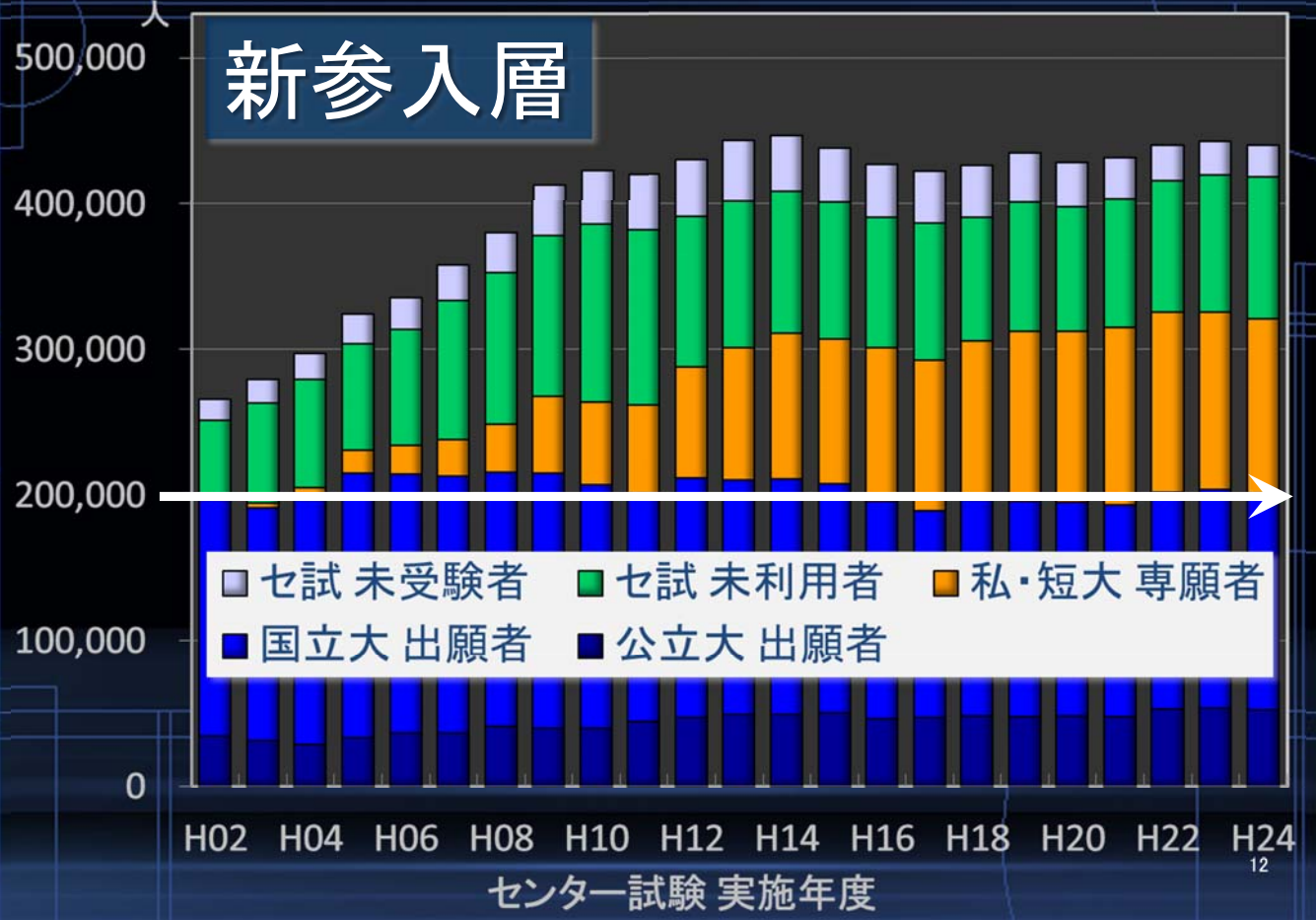
1.2b 新卒志願者の受験教科数



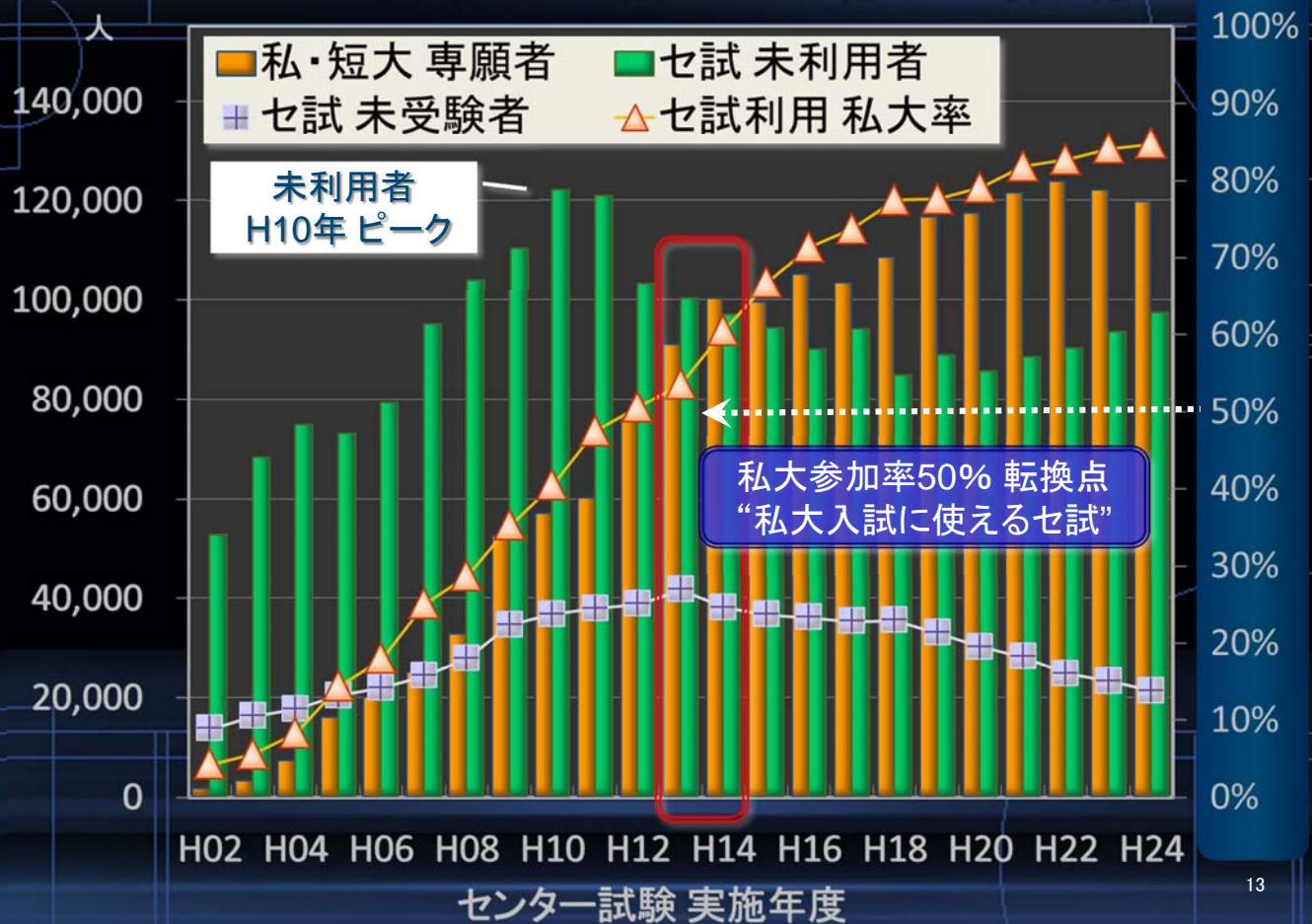
1.2c 私立大学・短大の数と入学定員



1.3a 新参入層の出願内訳



1.3b 新参入層の内訳の推移



13

1.4 センター試験志願者の2層構造化

● 中核 受験者層

国公立大学出願者：20万人水準で安定的に推移

- 仮想的な定員を保持できる進学校の総体が供給源
- 大学全入は浪人の急減・底打ちの形で発現

● 新参入 受験者層

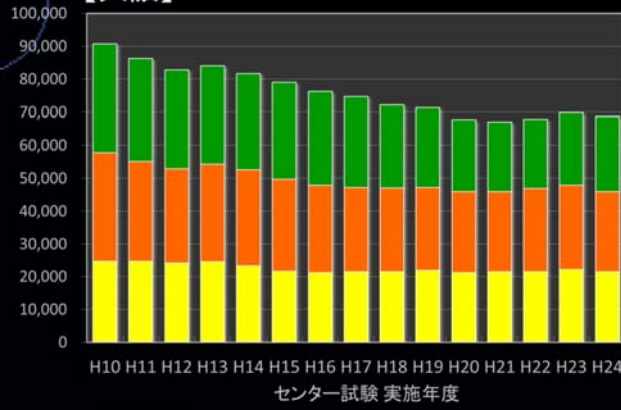
従来：私大出願機会の確保を企図した者が多数

- 新参入層の「先行増大」⇒ セ試未利用者の発生
- 私大参加率の緩慢な上昇 ⇒ 私大専願者の「遅延増加」
- 『私大参加率50%転換点』⇒ “私大入試に使えるセ試”
- 私大専願微減・未利用微増 ⇔ 飽和期の“新傾向”か

14

2a. 高卒者の進学志望率とセ試利用率

【大阪】

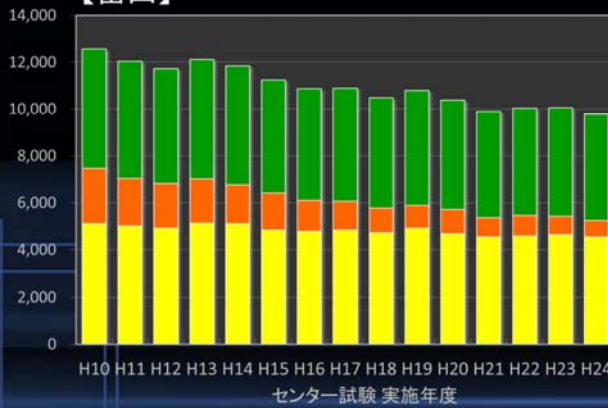


- 大学・短大 非志願者
- セ試外 大学・短大 志願者
- セ試 利用者

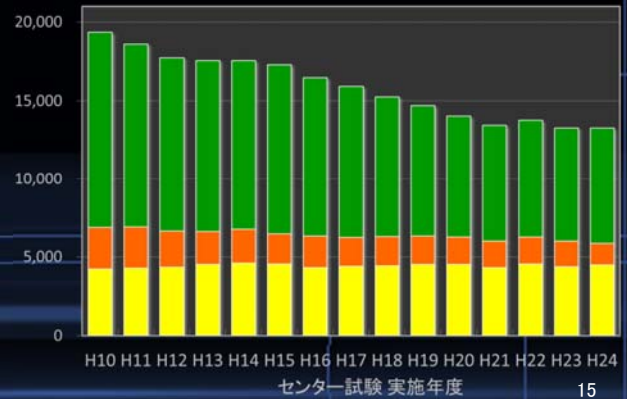
(学校基本調査・センター調べ)

県ごとに進学志望率や
セ試利用率は異なる

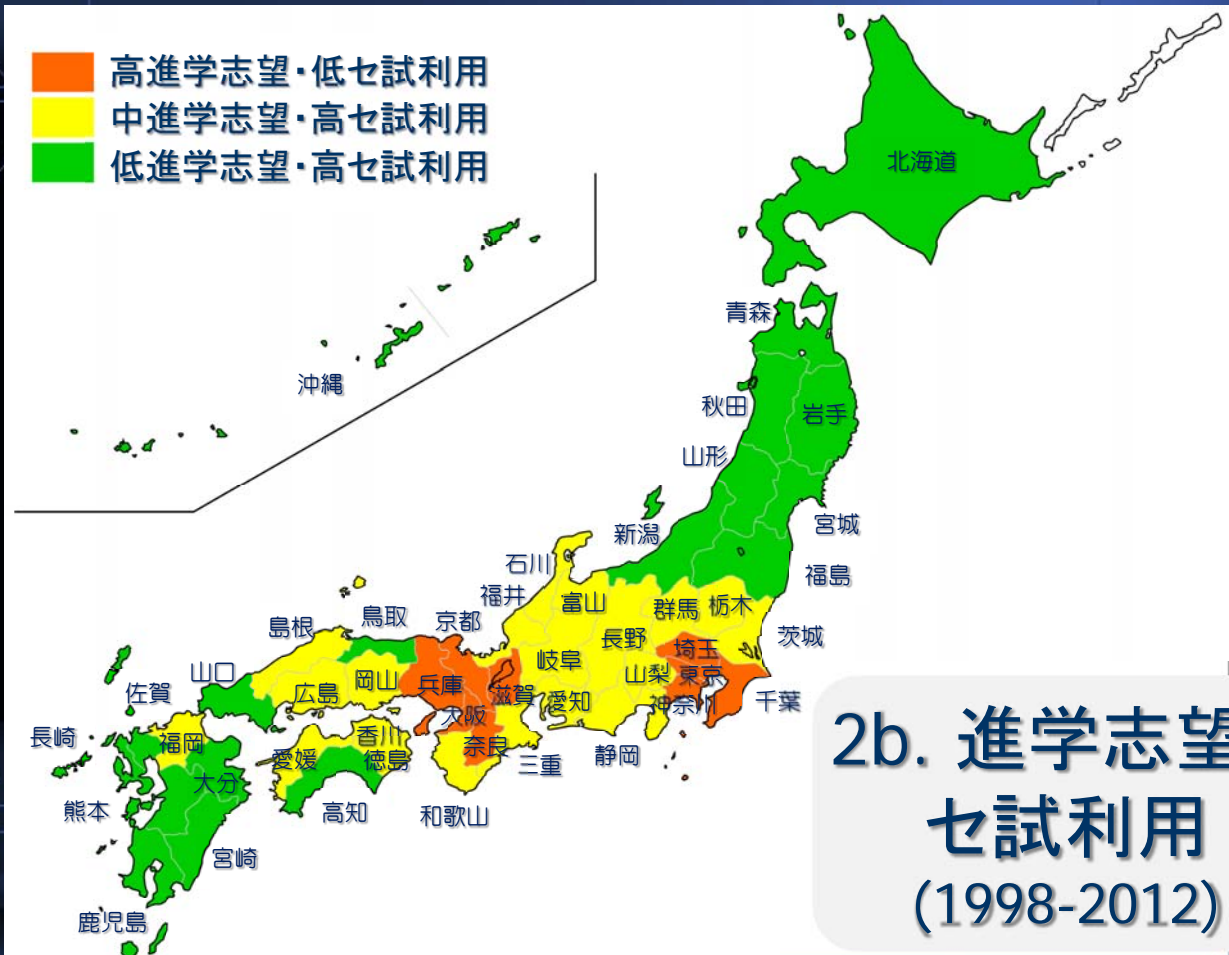
【富山】



【青森】



- 高進学志望・低セ試利用
- 中進学志望・高セ試利用
- 低進学志望・高セ試利用



2b. 進学志望と
セ試利用
(1998-2012)

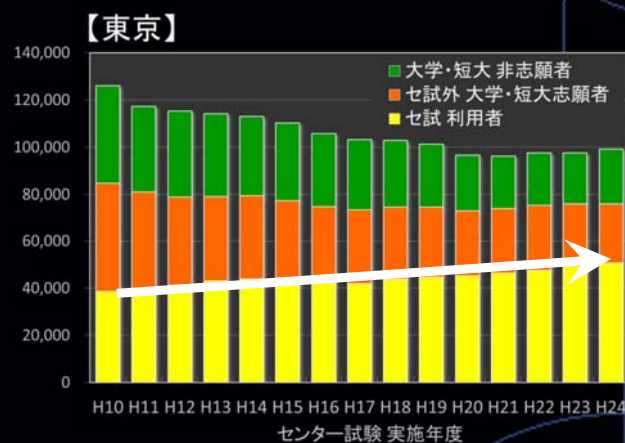
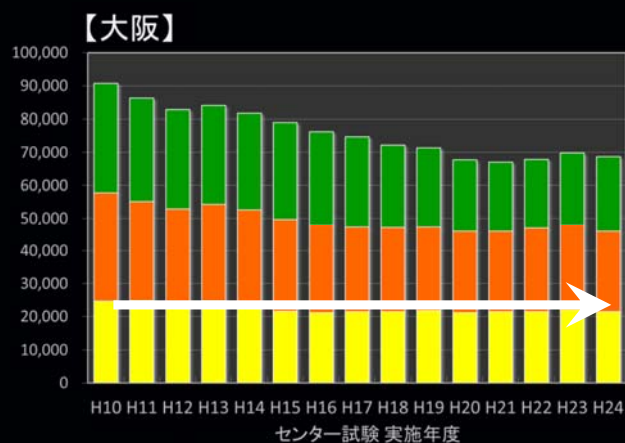
2c. 進学志望とセ試利用の地域性

- 進学志望率とセ試利用率を県別に類型化
 - 高進学志望・低セ試利用：首都圏・京阪神圏
 - 中進学志望・高セ試利用：中間地域
 - 低進学志望・高セ試利用：列島周縁部
- 地域によってセ試の使われ方が異なる
セ試での県別成績の比較はナンセンス
- セ試の利用内訳は地域ごとにさらに多様
cf. 首都圏と京阪神圏

17

2d. 都市部は同じ？ 首都圏と京阪神圏

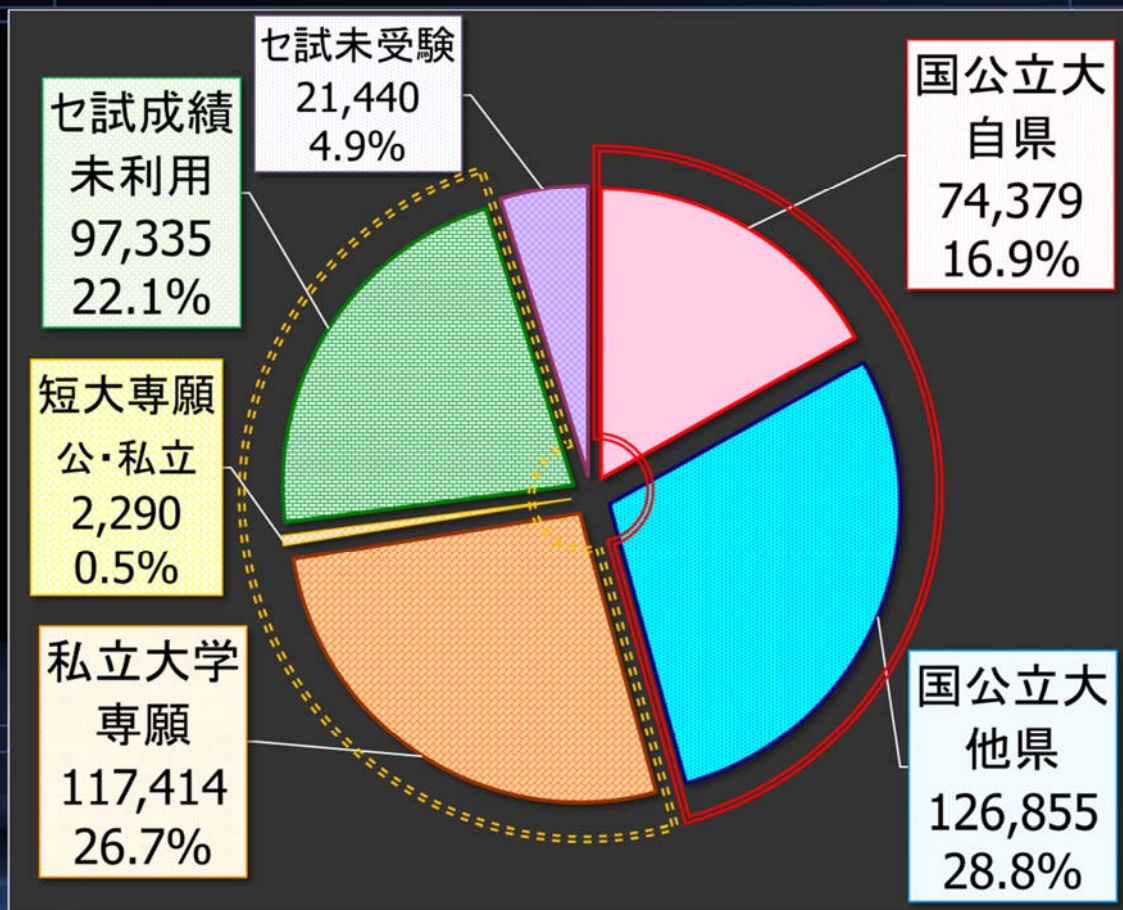
東京でのセ試の利用は
大阪とは違って急増



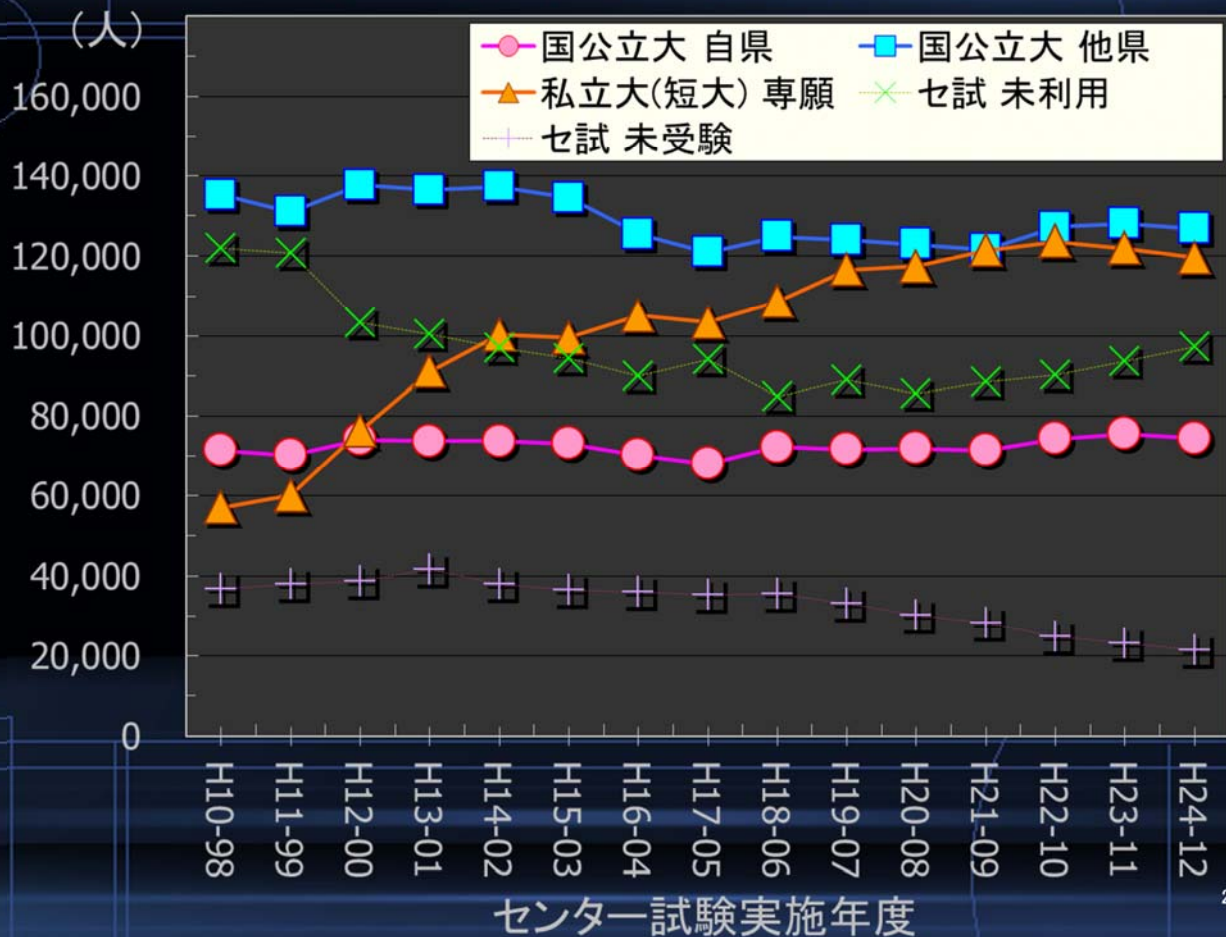
- 大学・短大 非志願者
- セ試外 大学・短大 志願者
- セ試 利用者

18

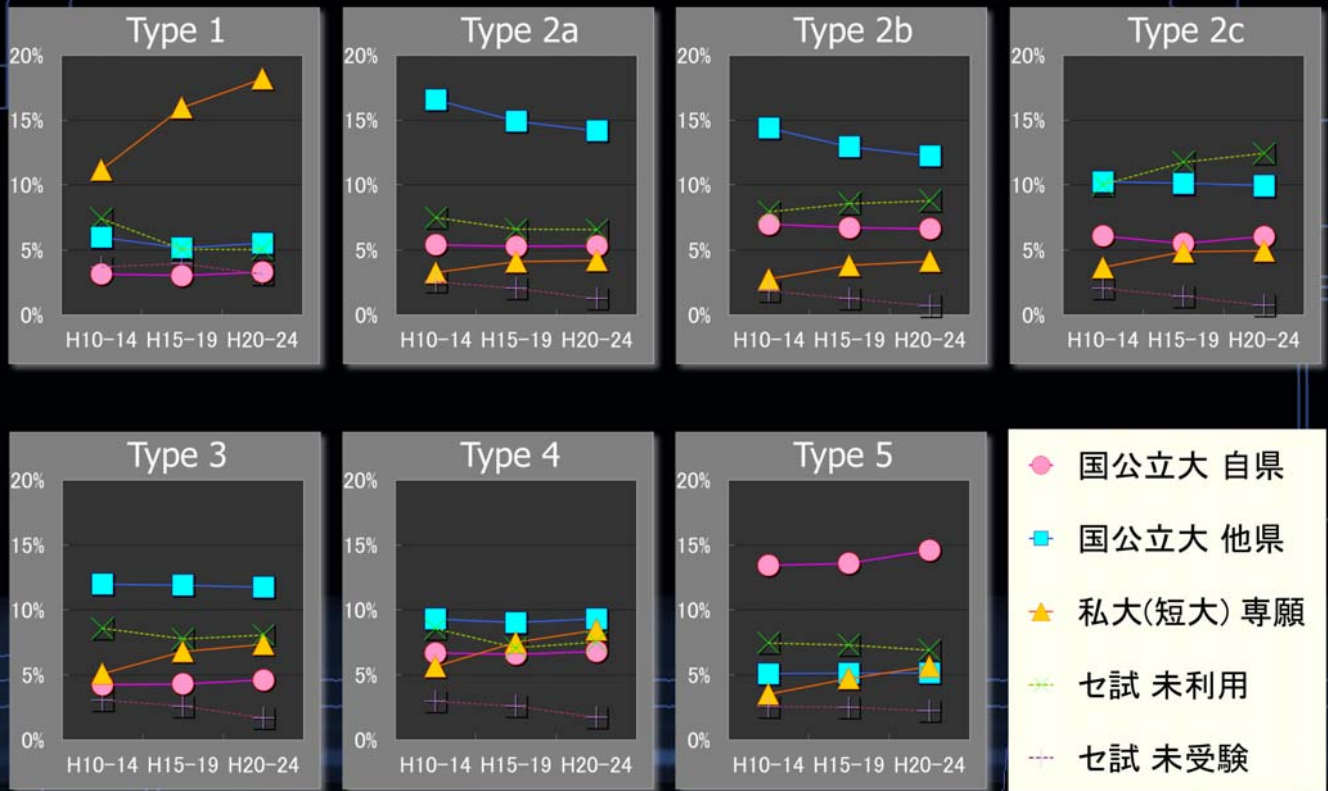
3.1a H24 七試 新卒志願者 出願内訳



3.1b 七試 新卒者 出願内訳 推移

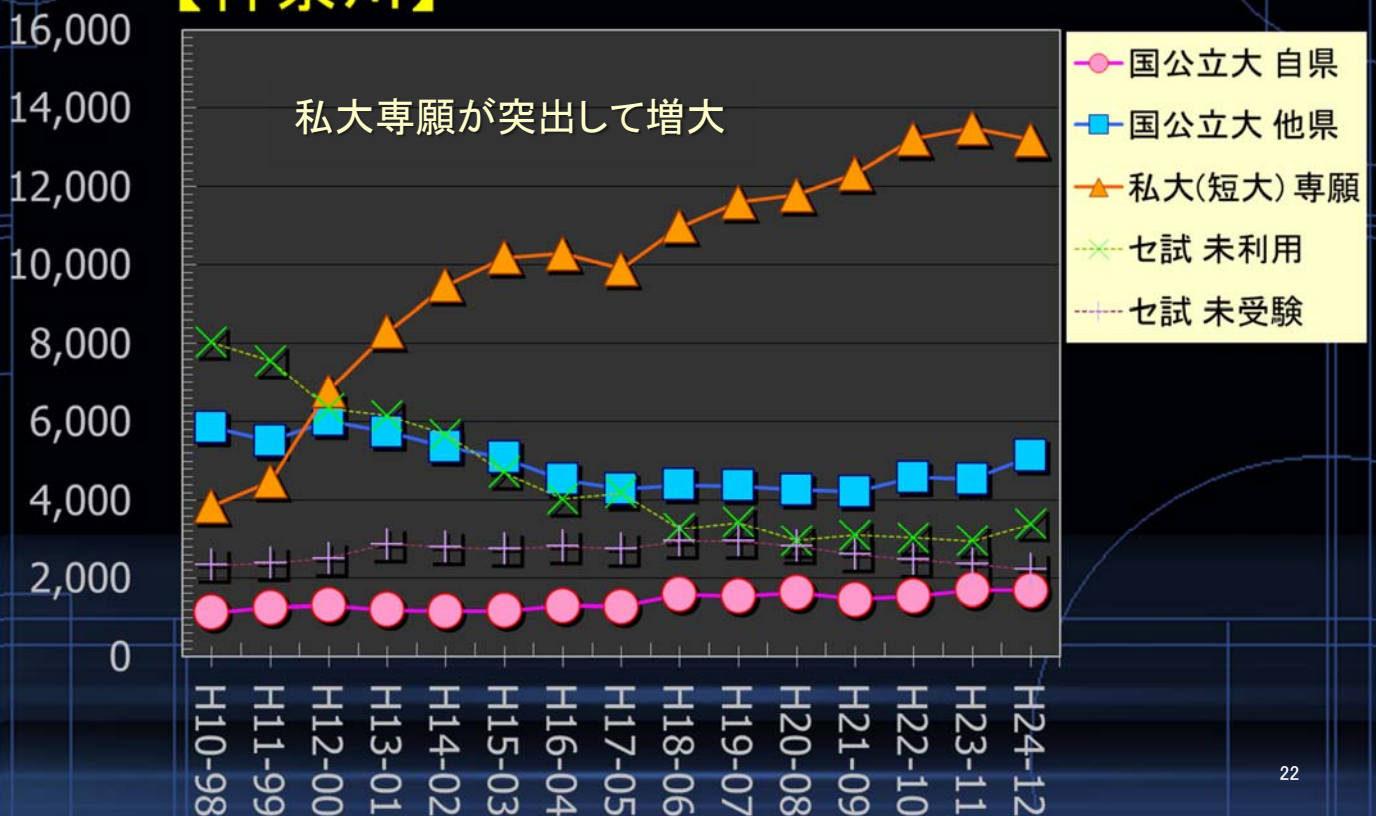


3.2 七試・出願内訳 地域別 類型 (2013年版)



Type 1 私大専願 中心・増大 型 埼玉・千葉・東京・神奈川 (4)

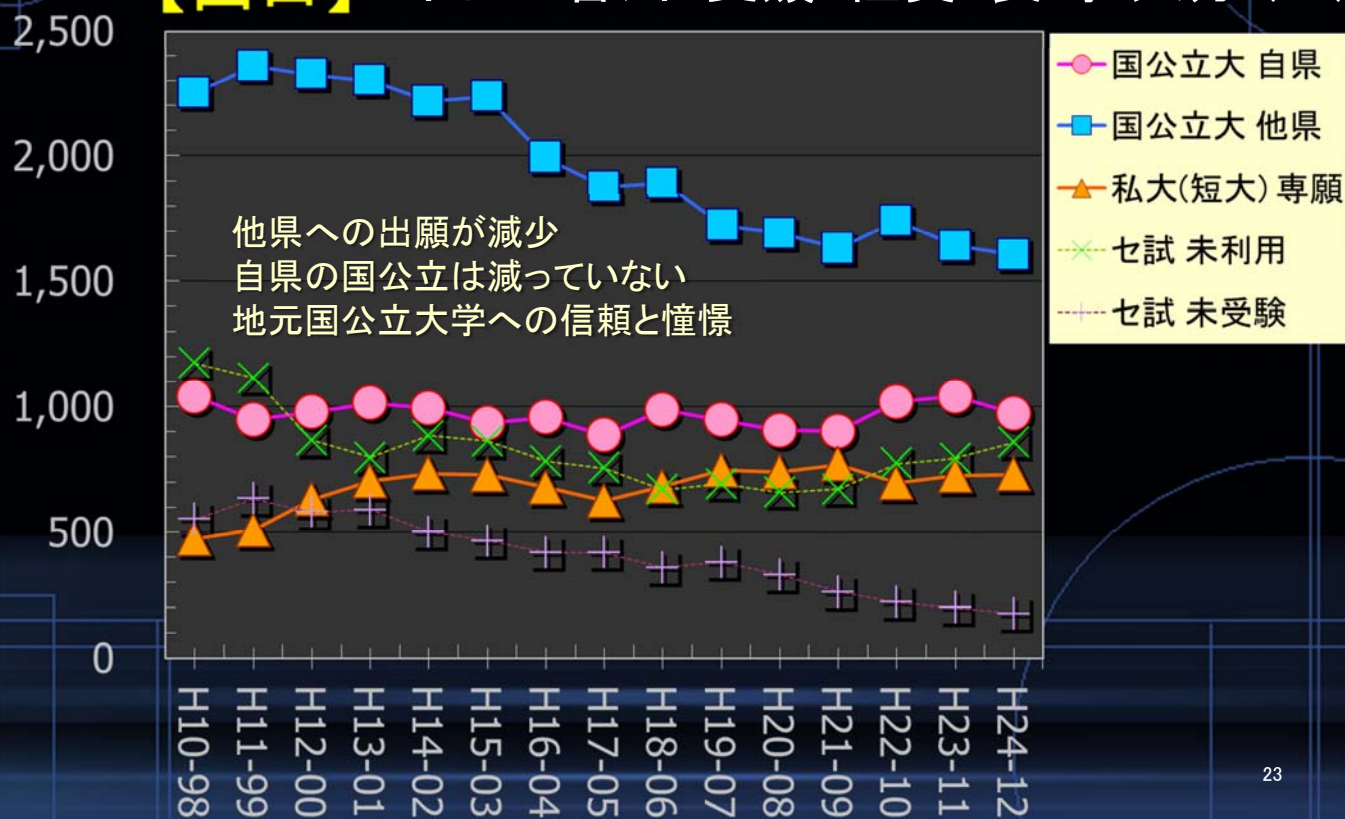
【神奈川】



Type 2a 他県 国公立大 中心(強)・減少型

秋田・石川・福井・岐阜・奈良・和歌山・鳥取・岡山・

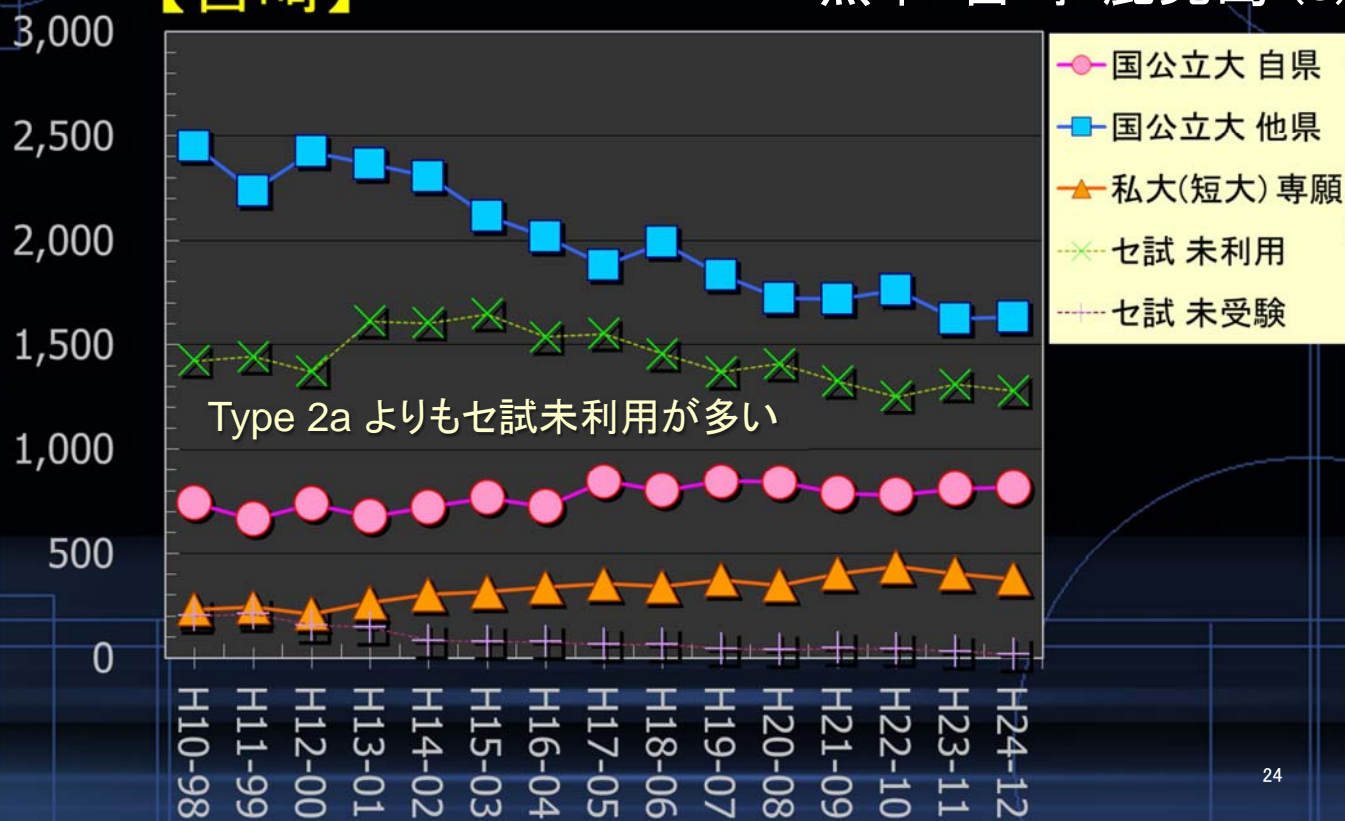
【山口】 山口・香川・愛媛・佐賀・長崎・大分 (14)



Type 2b 他県 国公立大 中心(中)・減少型

青森・山形・富山・島根・徳島・

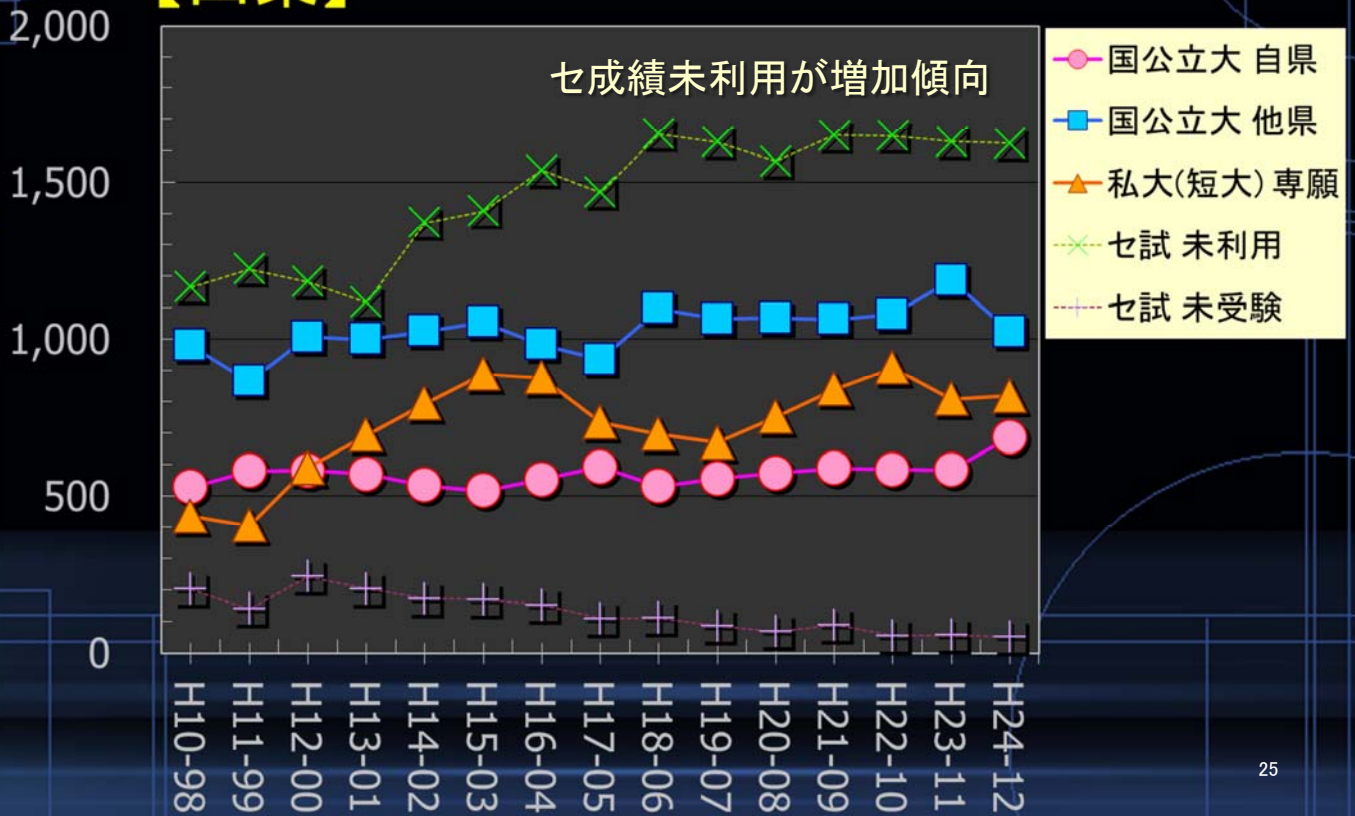
【宮崎】 熊本・宮崎・鹿児島 (8)



Type 2c 他県 中心(弱) + 未利用 増加 型

岩手・山梨・高知 (3)

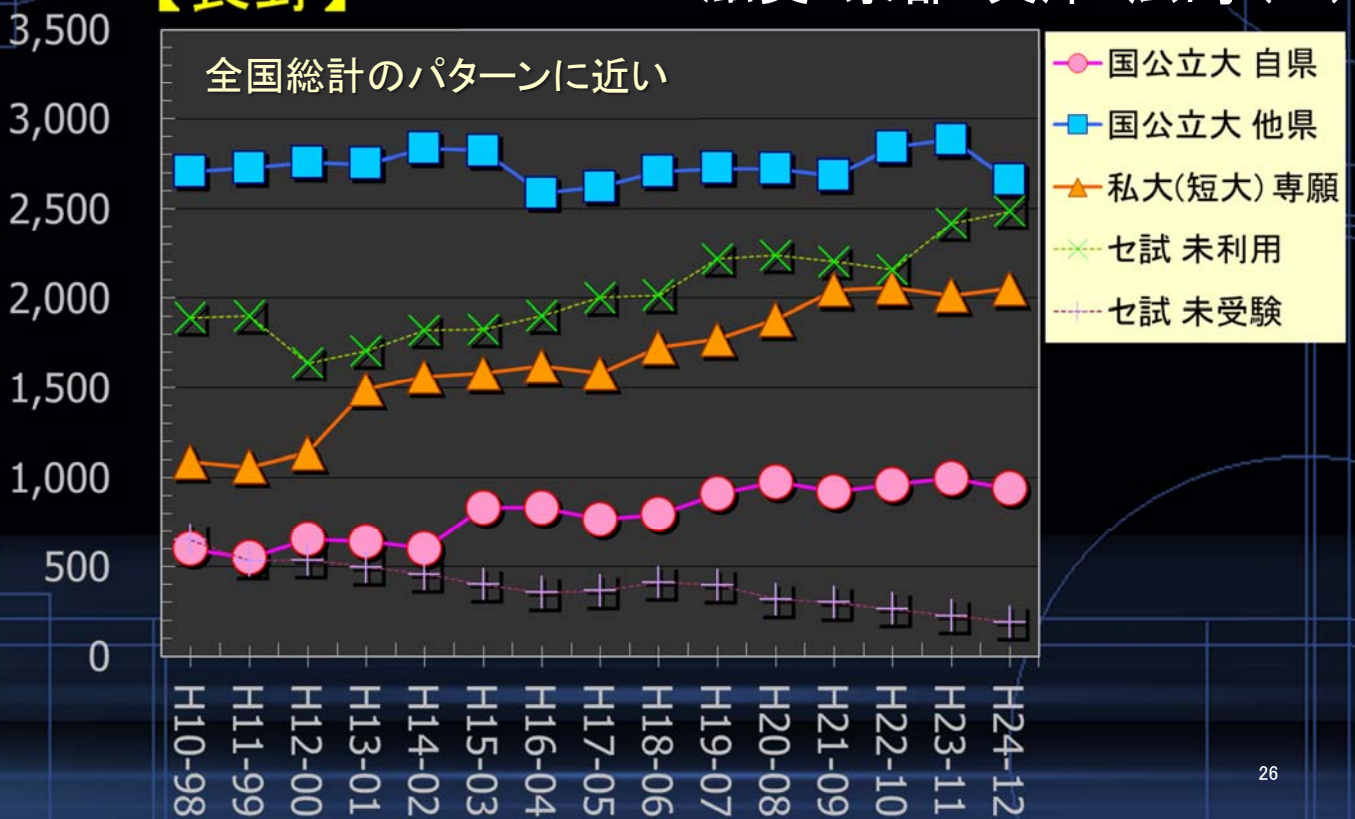
【山梨】



Type 3 他県 国公立大 中心 + 私大伸長 型

宮城・福島・栃木・長野・静岡・三重・滋賀・京都・兵庫・広島 (10)

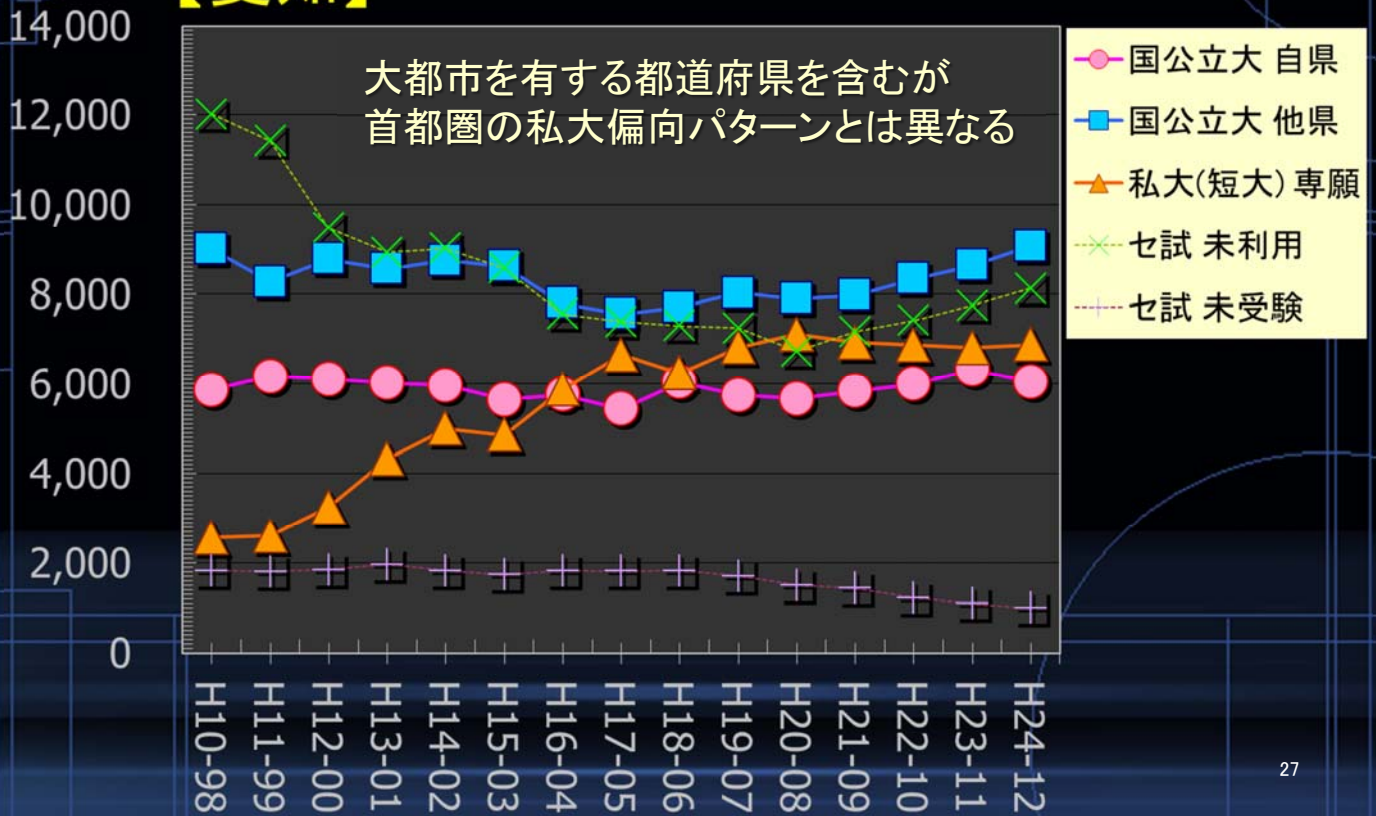
【長野】



Type 4 自・他県 国公立大+私大接近型

茨城・群馬・新潟・愛知・大阪・福岡 (6)

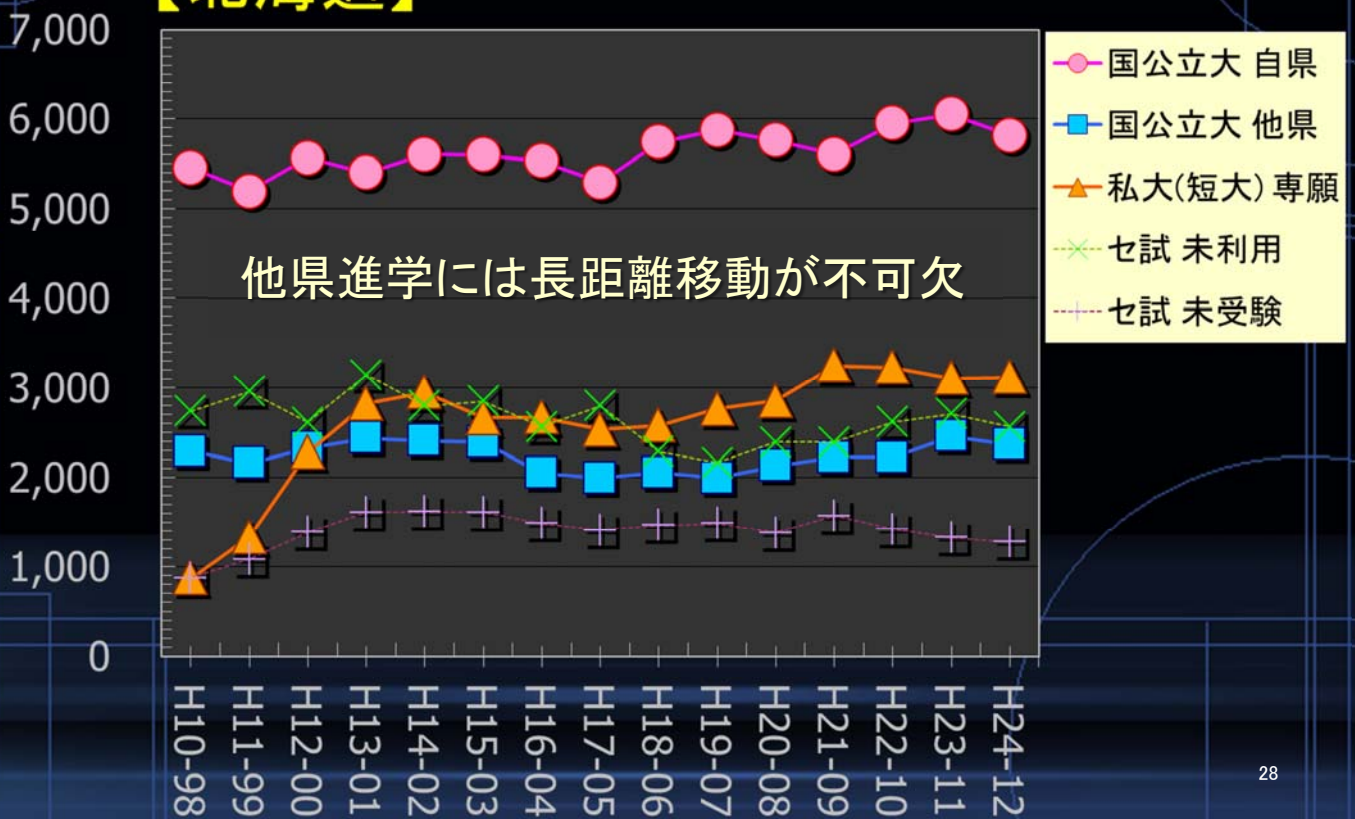
【愛知】



Type 5 自県 国公立大 中心・安定型

北海道・沖縄 (2)

【北海道】

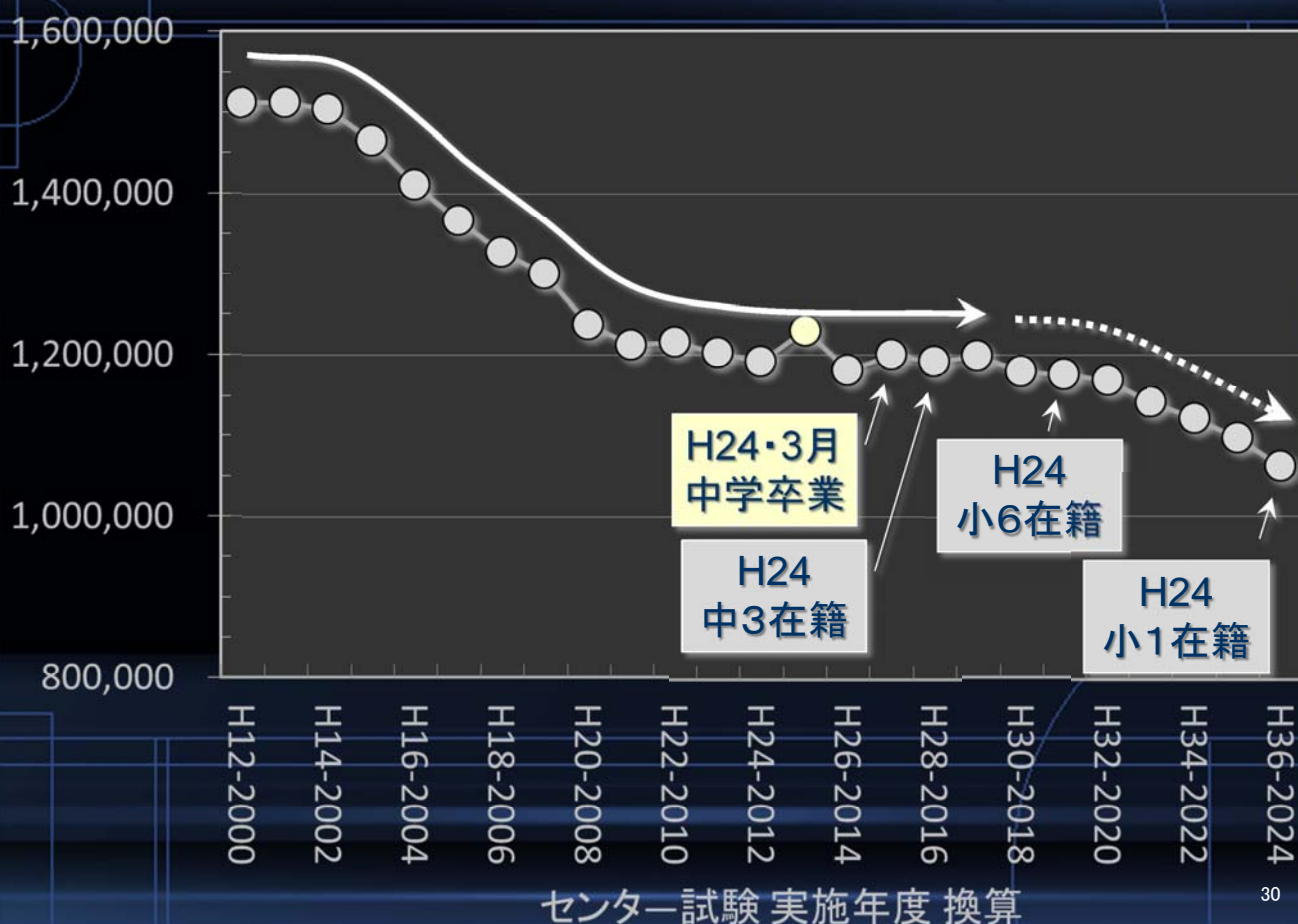


3.3 セ試による出願状況の地域別の特徴

- 都道府県ごとの出願状況には固有の特徴
地域の状況は全国総計のミニチュアではない
- 地域ごとの出願パターンには一定の傾向性
地域の事情・高校の指導方針が定常的に影響
- 社会的な変化は年次推移の形で重畳
18才人口の減少・セ試利用の私大の増加
- 年次推移は方向性を持って緩やかに生起
ニュース性を志向する報道と実状はやや異なる

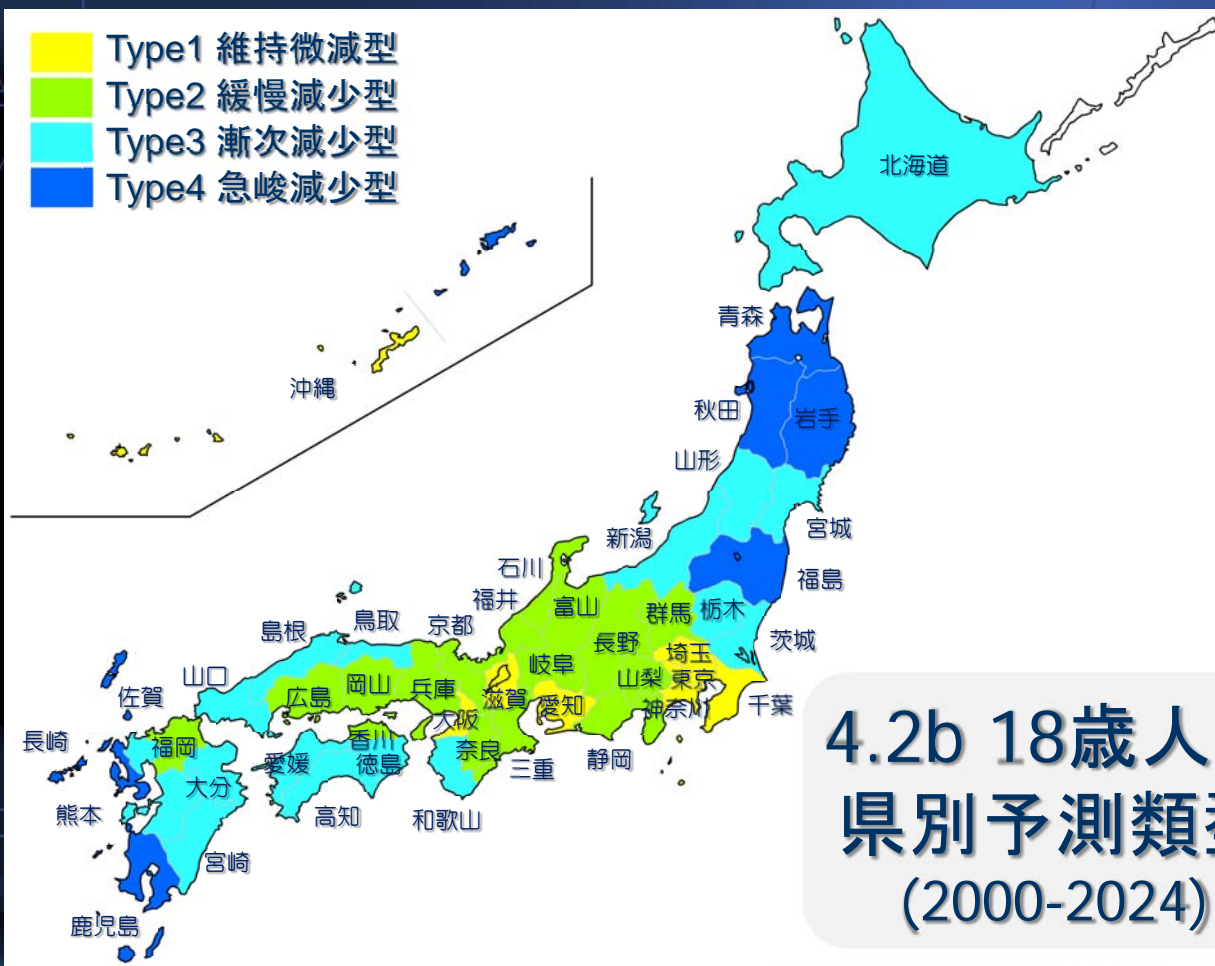
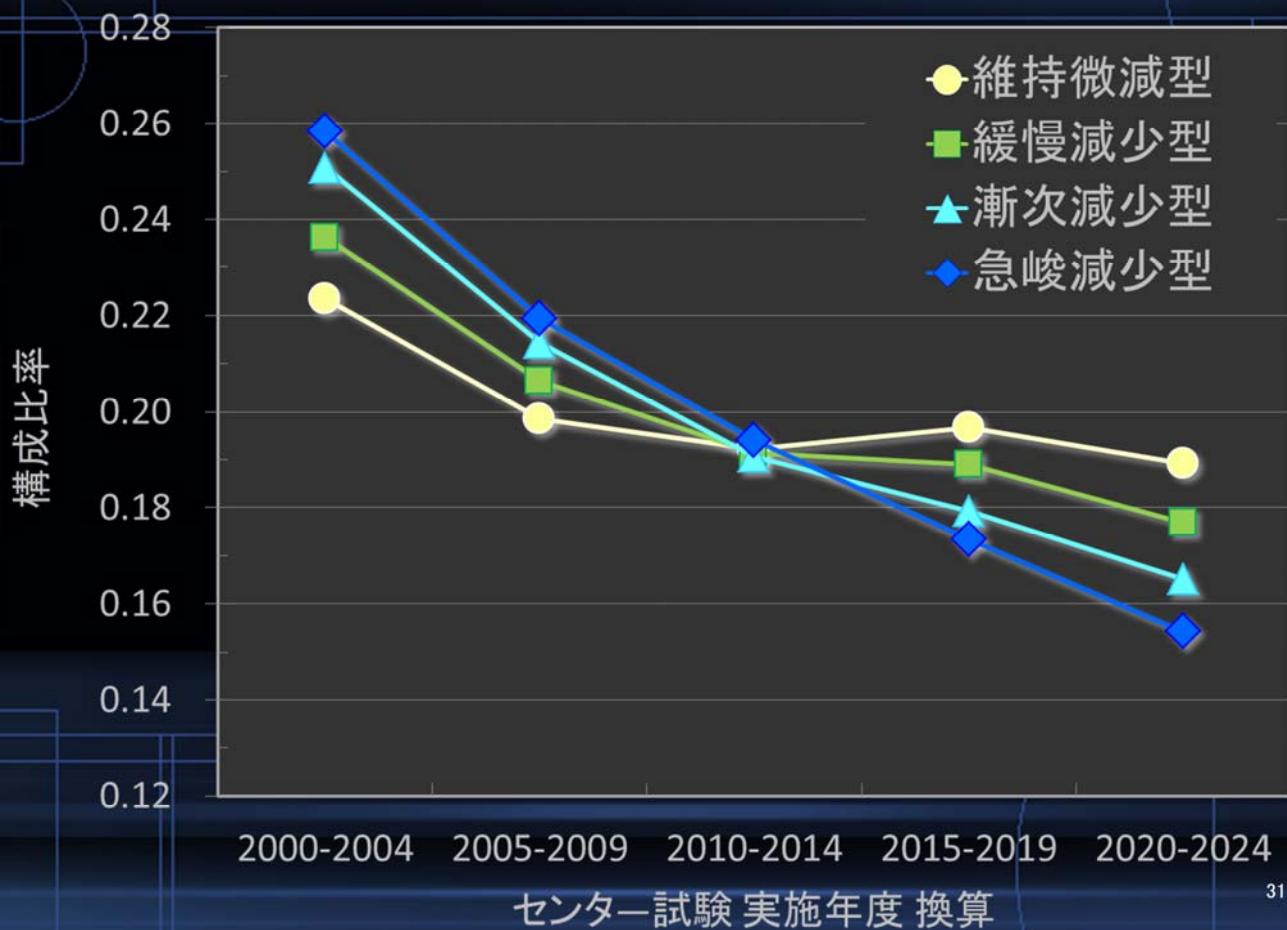
29

4.1 18歳人口の推移と予測 (2000-2024)



30

4.2a 県別予測のクラスター分析結果



4.3 今後の18歳人口の推移と予測

- 首都圏, 愛知, 滋賀, 大阪, 沖縄 は微減維持
- 本州・九州の外縁部で急峻減少
福島は若年層の県外移動を反映か
今後の人口移動でさらに変動する可能性も
- 地域ごとの人口減少の切迫度に温度差
地域特性を織り込んだ個別の対応策が必要
首都圏の状況から全国を押し量ると見誤る可能性
- 高校の統廃合・定員削減が将来予測の鍵か
マジカル・ナンバー20万人は維持されるか

33

5. センター試験の現況と今後の課題

- 志願者の2層構造化
中核層：実質的に高大接続テストとして機能
新参入層：受験目的の多様化・利用形態の流動化
- セ試：地域ごとに果たす役割・機能が異なる
地域特性・将来予測 ⇒ 大学の独自方策が不可欠
- センター試験の今後に向けた課題
“高校での学習努力が報われる試験”としての信任
“歴史の失敗の二の轍を踏まない” 進適・能研
“セ試が果たす機能と利用の現状”に即した議論を

34

X. その後

- 中教審 高大接続部会(案) (2014/10/24)
現行のセ試廃止 ⇒ 2つの新テストを導入
 1. 高等学校基礎学力テスト (2019～: 高校生一般)
 2. 大学入学希望者学力評価テスト (2020～: 大学志望者)
- 答申案のハイライト (大学入学希望者学力評価テスト)
 - 知識の活用力(思考・判断・表現): 合教科・科目型|総合型
 - 試験の年複数回実施・成績の段階別表示:
 - 英語の民間試験活用・CBT実施・記述式問題課題: 妥当性・信頼性, IRT, 項目プール, 等化, LRT, Linking, CBT, 自動採点, テスト技術の統合...
- “テスト学会”は知見をどのように届けるか?

35

ありがとうございました



36

参考文献

文教協会(2012).『平成24年度 全国大学 一覧』 文教協会

文教協会(2012).『平成24年度 短期大学 高等専門学校 一覧』 文教協会

文部科学省 (1988-2013).『昭和62年度～平成24年度 学校基本調査報告書
(高等教育機関 編)』 文部科学省

文部科学省 (1988-2013).『昭和62年度～平成24年度 学校基本調査報告書
(初等中等教育機関 専修学校・各種学校 編)』 文部科学省

鈴木規夫・嶋野英彦・石岡恒憲 (2003).「我が国における共通テスト・システムの構造(1) —共通テスト志願から次年度再志願までの時系列的行動分析—」『大学入試センター紀要』, 32, 13-38.

鈴木規夫・荒井克弘 (2010).「大学入試センター試験制度における高校の階層構造の特徴」『大学入試センター紀要』, 39, 1-12.

内田照久・鈴木規夫 (2013).「大学入試センター試験の中核受験者層と私立大学への出願状況」『大学入試研究ジャーナル』, 23, 85-93.